平成 29 年度 第 1 回足立区経済活性化会議

会議録要旨

平成 29 年 6 月 28 日（水）
あだち産業センター 3 階 交流室

(開催概要)

会 議 名	平成 29 年度 第 1 回 足立区経済活性化会議			
開 催 年 月 日	平成 29 年 6 月 28 日 (水)			
開 催 場 所	あだち産業センター 3 階 交流室			
開 催 時 間	午後 3 時から午後 5 時まで			
出 欠 状 況	委員現在数 17 名 出席委員数 14 名 欠席委員数 3 名			
出 席 委 員	中根 雅夫	阿高 松男	岡田 ヒロミ	福田 友子
	足立 義夫	入江 洋介	岡部 克己	小沢 頼孝
	小早川 真樹	鈴木 又右衛門	瀧野 静江	なかだ えり
	本山 功	渡井 良昌		
事 務 局	<p>(出席職員)</p> <p>大高産業経済部長、島田産業政策課長、倉本就労支援課長、 依田産業振興課長、山崎中小企業支援課長、 日比谷足立区勤労福祉サービスセンター事務局長、 高橋足立区観光交流協会事務局長</p> <p>(事務局)</p> <p>産業経済部産業政策課 経済活性化計画調整担当係 池田、鈴木 株式会社富士通総研 高橋、松田</p>			
会 議 次 第	別紙のとおり			
会 議 に 付 し た 議 題	<p>1 計画策定スケジュールについて</p> <p>2 審議事項</p> <p>(1) 次期 足立区地域経済活性化基本計画の骨子案について</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) ビジネスチャレンジコース「継続申請」の審査結果について</p>			

(会議録要旨)

島田産業政策課長

皆さま、本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、平成 29 年度第 1 回経済活性化会議を始めさせていただきます。本日の司会を担当させていただきます、産業政策課長の島田と申します。本日の会議は公開となっておりますので、傍聴席を設けさせていただいております。また、区政情報課にて、本日の委員名簿や会議資料等を公開させていただきます。議事録作成のため、会議を録音させていただいておりますのでご了承ください。

本日は 17 名の委員うち、14 名が出席されています。規定の委員数に達しておりますので、会議は成立しています。

それでは、中根会長、ご挨拶をお願いします。

中根会長

皆さん、こんにちは。今日も実りある会合にしていきたいと思います。日本ではあまり知られていませんが、経営学において、特にアメリカでは肯定的問いかけというものが普及しています。要するに現状の課題を見つけて課題の原因は何かということで消極的・非生産的な責任の追及という形で終わってしまうのではなく、肯定的問いかけというのはまさに今日話のある通り、施策の方向性の中の弱みを強みに、強みをさらに成長に繋げていくといった、非常に前向きな取り組みのことを言います。皆様方の率直なご意見をお聞きして実りのある会議にしていきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

島田産業政策課長

ありがとうございました。

本年度最初の会議ということで、4 月に人事異動がございましたので、区の管理職員を紹介させていただきます。

(管理職員の紹介)

それでは、本日の配布資料を確認させていただきます。

(配布資料の確認)

では、この後の議事進行を、中根会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(議事)

中根会長

本日は「計画策定スケジュールについて」の説明のあと、「審議事項」が 1 件、報告事項が 1 件あります。

それでは、次第に沿って進めてまいります。次第の 1 「計画策定スケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

足立区経済活性化資料、件名が計画策定スケジュールについてとなっております、まず計画策定のプロセスについてご説明致します。

1の(1)に「計画骨子の作成」とあります。計画の柱立てや基本方針、施策の方向性など、計画の骨子を固めるのがこの段階でございます。本日の会議では皆様に、この「計画の骨子案」についてご審議いただき、骨子を固めてまいりたいと思っております。

次に(2)の「施策体系・施策の作成」でございます。参考資料としてお配りしております「現行の足立区地域経済活性化基本計画」の34頁を開けていただきますと、第四章分野別施策となっておりますが、ここの図の5番でございます。施策郡が1、2、3、4とありますが、4つの施策群に10の施策を紐付けているという形になっております。このように大きな施策のくくりと、それらを具体的に進めていく施策を体系的に整理したものが施策体系となります。また、36頁をご覧くださいますと、それぞれの施策の方向性や目標、それを実現するための事業等を示したものが施策でございます。計画の骨子が固まりましたら、この「施策体系と施策」を作成致します。

続いて(3)の計画書の作成です。ここでは、「施策体系と施策」に基づき、それぞれの内容を詳細に文章化して冊子としてまとめます。このような現行の経済活性化という形で冊子にしていきたいと思っております。

以上、簡単ではございますが、計画策定のプロセスを説明させていただきました。

なお、「施策体系・施策の作成」と「計画書の作成」については、経済活性化会議の各部会において皆様にご検討いただきたいと思っております。各部会につきましては、資料1の名簿をご覧ください。右手の方に各「部会」と表示させていただきました。

1、2、3部会と有識者関係業績課の4人で第4部会というかたちで4つの部会がございます。また各部会の部会長につきましては「足立区経済活性化会議 各専門部会運営要領」につきまして、経済活性化会議の会長が指名することになっております。それぞれの部会長はすでに会長の指名に基づいて名簿にお示ししておりますので、よろしく申し上げます。

続いて、資料3にもどってください。2のスケジュールについてご説明させていただきます。

6月をご覧くださいますと、本日の経済活性化会議の全体会で骨子案についての審議を行っていただくということにさせていただきます。このあとは、先ほどもご説明したとおり、「施策体系・施策」や計画の素案について各部会でご検討いただきたいと思っております。

そして10月の全体会ではパブリックコメントとして公表する計画案を確定させていただき、11月からパブリックコメントを実施するという流れにさせていただきたいと思っております。以上でございます。

中根会長

続いて、審議事項「次期計画の骨子案について」、事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

資料4をご覧くださいと思います。平成29年度第一回足立区経済活性化会議の骨子について、次期計画の策定にあたりましては各種統計データやアンケート調査の分析を実施してきました。これらの分析結果や経済活性化会議の中でいただいたご意見を資料11に議事要旨をまとめていますが、いただいたご意見を踏まえまして計画の骨子案を作成させていただきました。委員のみなさまには事前にアンケート調査の結果と骨子案を送付させていただきましたが、まずアンケート調査の結果につきまして分析を実施した委託事業者の富士通総研から説明させていただきます。

株式会社富士通総研

(資料5、資料6、資料7に基づき、アンケート調査の結果を説明)

中根会長

区民アンケート、製造業、非製造業それぞれ分けた形でアンケートを実施した内容のご報告をいただきました。面白い結果が出ていると思いますが、それぞれのお立場から何か意見等があればいただきたいと思います。よろしいでしょうか。また後であればということで、次に骨子案について事務局の方からお願いします。それでは、骨子案の説明をお願いします。

島田産業政策課長

それでは資料の8をご覧くださいと思います。資料8はこれまでもご紹介させていただきましたが、足立区の基本構想が目指す将来像「協創力で作る 活力にあふれ 進化し続けるひと・まち 足立」というものがあります。これに向けて産業経済部の目指すべき姿として、「人を支え 仕事を育てる ～つながりが活力を生む～」ということしていくつか項目があります。人材育成、まちの魅力を高めて新たに企業や人を呼び込む、そして安全な消費生活、生活環境の実現を目指す、また人や企業大学金融機関等さまざま主体がつながって、区内経済の好循環をとというような形で目指すべき姿を考えています。

その下の4つの視点がありますが、これは分野別に各部でつくっている計画の中で共通しているということ明示してございます。そして最後柱立てということで5本の柱を私どもで考えているところでございます。ただ1点、前回ご説明申し上げた時には柱立ての真ん中、3つ目の就労支援の充実ということを考えていましたが、新たに平成30年にこの計画ができあがって、来年度に向け、私どもの組織とも並行して考え、就労の支援から雇用支援というくくりに変えて整理させていただきました。

そして資料9でございしますが、先ほどアンケート等の分析結果でご説明をいただきました。1番右の地域経済活性化に向けた区の強み、弱みというところにまとめてございます。柱立ては資料8から引っ張っておりますが、その柱立てに基本方針を加えてございます。

まず「地域経済を支える産業の振興」は非常に大きな柱と考えておまして、基本方針を3つ掲げています。真ん中の「施策の方向性」はそれぞれの柱立てを実現するための施策の方向性を示しています。そして「施策の方向性」は「区内産業の弱みを強みに変える施策」と、「区の強みから新たな魅力を生み出す施策」という、マイナスからプラスへ、またプラスから大きなプラスへという2つのアプローチで取り組んでいきたいと考えているところでございます。そこで強さを表現した赤マーク、弱みを表現した青マークにわけて表示してございます。

またすでに委員の皆様には事前にアンケート調査の結果と骨子案を送付させていただきました。右側の区の強みと弱みのところでございますが、一つひとつがこちらの施策の方向性に関わってくるというところでございます。具体的にどういう形かというところに書いてある通りですが、それぞれの柱立てにつきましてたとえば地域経済を支える産業の振興では、「産業基盤の強化と特性を活かした事業推進」に5つの方向性がございます。上から2つ目の「地域特性を考慮した産業振興」というところで、1番右の方の強みというところでエリアデザインによるまちづくりの推進を全庁あげて取り組んでいるところでございますが、足立区は広いので地域特性、千住と、川を越えた部分と、川をこえると北も西も東もあります。したがって特性を見極めて産業振興をしていかなければならないだろうと考えています。

そしてものづくり産業の高度化、ネットワーク化の推進というところで、製造業の区内取引率が低く立地も意外と分散しているので集積させるということはなかなか難しいと考えています

が、ネットワーク化、IT といった形で連携していけないかというところが課題・方向性ではないかと考えます。

また 2 つ目の柱の「企業支援と事業者の経営力強化」というところでは新たな産業基盤の創出としまして創業支援の充実、産学連携、企業や店を外から呼び込むとなります。そして企業、イノベーションの促進、これは ICT や IoT、AI の導入というところを方向性として入れていきたいということです。右側の強み弱みも、たとえば廃業を考えている商業サービス業が多いということは逆にそこをあらたな商業、サービス業を呼び込めないか、また起業意欲の高い区民が 13% となっており、年齢層の若い方が意外と考えているということもあるので取り入れていきたい。また交通の利便性や人件費、地代の安さがメリットになっているということもあります。

1 番下のところに「実効的な推進体制とネットワーク基盤形成」とあります。これは全体を通じての話ですが、産業分野での協創体制の確立ということで、足立区は協働から協創へ進めていきたいと考えている中で活性化基本計画の中でもこういった協創プラットフォームといわれているものをつくっていけないかということを考えています。

1 番右下になります。従業員規模が 20 から 40 人、経営者年代が 40 歳代の企業は新たな取り組みに対する意向が大変高いということがわかっておりまして、産業における協創のパートナーとして可能性が高いのではないかとこの風を考えているところでございます。簡単でございますが、以上でございます。

中根会長

ただいま基本方針として、地域経済を支える産業の振興、企業支援等経営力強化、消費者の安全安心、そして街の魅力の創出とプロモーションということの説明がありました。また「区の弱みを強みに変える」という視点と「区の強みをさらに伸ばす」という視点から施策の方向性について説明してもらいました。

ただいまの説明に関して質問等あれば承りたいと思います。

鈴木又右衛門委員

エリアデザインによるまちづくりの進展から、地域特性を考慮した産業の振興を進めていくということは、そのとおりだと思います。今、骨子案は業務別に仕分けがされているので、千住のエリアはどう、西新井のエリアはどう、といった切り口が頭にあっても良いと思います。各エリアは区全体とは事情が大きく違うので、そこから議論したほうが具体的になる気がします。

私は就労支援に関する取り組みをしていますが、足立区には特区があり、ハローワークと民間が協力して雇用対策をしようとしています。これは足立区だけになっています。状況が許す限り、使えるものは使うことが重要だと思います。足立区は財政に余裕がない場合は、外からお金を引っ張ってくる等のことも重要だと思いました。

それから、小規模の企業で若い経営者の方が新しい取り組み意向があるということで、考えるよりも実行が大事だと思うので、こういう方たちをどう組織できるか、商工会議所で若手の会などがありますが、ここを自由に組織できると色々面白いことができると思います。

中根委員長

ただいま、鈴木委員からエリアを考慮するべき、あるいは特区等について意見がありましたが、事務局からお答えをお願いします。

島田産業政策課長

エリアについては、足立区は駅を中心に取組みを進めています。例えば江北エリアに医療機関を誘致しようという話もあります。地域毎の駅を中心に、先ずは区民の生活圏を考えながら進めていきたいと考えています。どのように住まいやすさを高めていくかが課題と考えています。地域毎に視点を持ってやっていくことは、区でも重要だと考えています。

倉本就労支援課長

足立区は早いころからハローワークと連携を深めて区役所北館にハローワークを開設した経験があります。足立荒川職業協会様とハローワークが民間企業と連携を深めながら地域の雇用開発、就労開発に取り組まれてきたと聞いております。

大高産業経済部長

本来、職業紹介は公の分野が専管として取り組んできましたが、十何年前に特区申請をして全国で初めて公と民の連携による職業相談ができる仕組みを組み込んだと記憶しています。就労、雇用の部分だけでなく、企業誘致など他の分野で産業経済分野を活性化するためのハードルがあれば、それを突破できるような特区申請というのは念頭にあります。

例えば、看護師の養成で言えば、今は旧准看護師はなくなっていますが、介護現場で言えば医療の知識を持った准看護師さんがいると介護のレベルが上がるということがあって、准看護師さんを養成する学校を新設するというのもありえるかもしれません。

それから、産業というと建築基準法の用途地域制限が非常にきつい。足立区の場合は住居1種、2種の住居専用地域、いわんや工業専用地域はほとんどなくなってしまっているか、あったとしても下水道、清掃工場が占有していることを考えると、準工業地域にある企業さんが面積拡大しようとしても、なかなか500㎡を上限にして大きくできないなど色々と制限がありますので、都市の中であって、どのハードルをどう越えるとプラスになってマイナス面が少なくなるかといことを研究しながら、必要に応じて特区については前向きに対応したいと思います。

それから、足立区のエリアについては、地域によって特質が大きく異なっています。区の向かうべき方向性は計画の中に落とし込んだとしても、それを実現していくためには、それぞれの地域に応じた細かいプランを立てていかなければいけないと思います。区でいうエリアデザインとこの計画を実現していくためのエリアごとのカラーリングは別のものだと思いますし、それに合わせて実現を図っていかなければならないと思います。

本山委員

就労、雇用のところですが、私は事業を進めている中で採用する側で、困っている方がたくさんいると今回のアンケートを見て思いました。今、区民が就職するためにどうするかという「就労」のほうに聞こえたのですが、骨子案には「雇用」とあるので、企業視点で採用するほうかと思ったのですが、そうでもないようにも見えます。そこが読み取れなかったのですが、どうなのでしょう。

島田産業政策課長

これまで就労支援課は働くことが困難な区民の方にステップアップしていただき、仕事に就いていただくという方向性で進めてきました。ところが、経済状況が大きく変わり、雇用環境が改善されている中で、就労に結びつかない方については福祉部のくらしと仕事の相談センター

が支援させていただいています。そのため、産業経済部では企業の視点に立って企業の採用や人材育成の支援を行っていくことを新たな計画の柱として掲げています。

入江委員

アンケート結果に「起業したい人が13%で若い人が多い」とある一方で、企業が区に対して求める支援ニーズでは「創業支援」が0.9%と低く、このギャップが理解できなかった。そもそも、起業したい人はどのような分野で起業したいのか、足立区の課題解決をしていくような企業なのか、どのような傾向があるのか教えていただきたい。

富士通総研

アンケート調査項目の分量の関係でその点についてはお伺いしていないため、申し訳ありませんがお答えできません。

中根会長

それでは、骨子案について審議を行います。

骨子案で示されている「施策の方向性」などについて、「ここに記載されている以外に、区にはこんな強み、弱みがある」、「他にこういった施策を盛り込むべき」、「この施策は特に重点を置くべき」など、委員の皆様からご意見をいただきたいと思えます。

足立委員

平成18年から4年間、犯罪認知件数がワースト1でしたが、最近なってまたワースト1になってしまっています。このため、安全安心の街を実現することが喫緊の課題だと思います。特に私は綾瀬に住んでおり、犯罪が多いという認識があるため、花の植栽を植え替えたりする活動していますが、今後も何か対策を考えていく必要があると思えます。

岡部委員

信金協議会の岡部と申します。アンケート結果の説明を受け、区民の結果と商業・サービス業の事業者の結果を併せて考えてみました。区民の街や産業のイメージについては、公園や緑地でそう思うが多く、日々の暮らしを支える商業サービス業が充実している、が続いています。また元気にいきいきと働いているヒトが多いや、魅力のあるお店が多く立地しているも高くなっています。集客力のある大規模商業施設が多く立地している等もあります。次いで地域資源としては商店街となっています。商店街については、多くの方が近くの商店を食料品や日用雑貨で利用していますが、品揃えや駐輪駐車スペースが課題となっており、足りないものがあるとなりました。こだわりのお店や雰囲気の良いお店、ショッピングモール等も求められていました。逆に事業者では、問題点については、売り上げの伸び悩み、高齢化、人材不足となっています。今後3年間では業況が悪くなると予測されており、廃業・閉店していくということとなりましたが、サービスの充実等も多くなっていました。品揃えの充実も。周辺商店地域の発展については、空き店舗・事業所の解消、環境整備とイメージ向上、駐車駐輪の整備、歩道等の整備、不足業種を補うとなっていました。

これら2つを比較すると、8項目で区民の望むものと事業者の取組みが重なっていました。これら合致している部分について早期に対策を打っていくことで、地域のイメージや商圈の発展にもつながっていくと考えられます。良い結果だと思えました。

小早川委員

骨子案を見て、全体的によくまとまっていると感じました。思っていることが加味されているというのが率直な感想です。

私は印刷製本の製造業ですので、そういった中から申し上げますと、今後、ものづくり産業を足立区の産業の1つとしていかにPRしていくかというのは力をこめてやっていただきたい。

「地産地就」、地元の方が地元の企業に就職するという点で、就労支援や高校、大学との連携を強めて、インターンシップや実習先の選定や区内の様々な連携を強めていただきたいというのが希望です。そういった中で、産業経済部の中でいくつか課が分かれていると思いますが、是非、横の串で連携し、課長、係長クラスでコミュニケーションを図っていただくことで、区内企業の雇用がスムーズに進むと思います。

また、地元で生まれて、地元で就職という点、一見、見識が狭くなると感じてしまう傾向があると思いますが、骨子案にもあるように他企業との連携を強めることでより広い見識を持った若者を育てていくということを是非、進めていただきたい。

瀧野委員

消費者として発言いたします。若い人もそうですが、消費者の中でも高齢者に着目すると、高齢者の動きが見えるアンケート結果でした。買い物に行くにしても乗り物に乗れない高齢者は多くいると思います。私は千住に住んでおり、便利ですが、花畑や西新井からは車を使い千住に行くことが多いと思います。また商店街のシャッター街が賑やかになっていけば良いと思いました。今後、人口減少も影響しても商店が盛んになって行けるよう、高齢者が商店街を利用できれば良いと思います。

また商店街をこの1年をかけて調べていきたいと思います。ハト公園のしょうぶまつりで生まれて初めてスタンプラリーをやってみました。こういったイベントが近くで高齢者も遊べるものがあれば良いと思います。

本山委員

本山です。アンケートを拝見し、1つ目はICTの導入が少ないと思いました。一方で国から平成28年度の補正でICT導入補助金がありました。私の会社も登録をしましたが、受注が1件もありませんでした。気持ちは進んでいるがまだ事業として成り立っていないということもあります。しかし国がそうしているということは、今IT導入するとすごく安く済むということだと考えております。ほぼ儲からないため積極的に活動しない事業者が多いということもあるため、行動することが必要だと思いました。

次いで採用に関して、私の会社は業種として人がいればその分儲かるということもあります。北千住は立地が良く、常磐線は少なくとも仙台までつながっており、東武線も茨城県までつながっており、成功している事業者が多い印象です。ITを駆使して採用している事業者も多くいますが、大学に行くと、求人票が紙で置いてありますが、若者はスマホで採用情報を見ています。中小企業の方々にレクチャーが必要だと思いました。

先ほどの就労を雇用にということですが、違和感があります。就労環境と雇用環境は全く違うと思います。

渡井委員

渡井です。まずアンケートの疑問として、居住満足度が80%を超えていますが、軽犯罪率が高いということです。千住に住んでいますが、ワースト1という意識もありません。自転車の盗難が増えてワースト1に戻ってしまったということですが、マスコミに問題があると考えています。もっと重犯罪を取り上げると足立区はそこまで高くないと思いますし、ここで治安に対して不安に感じている人の分析をしてほしいと思いました。

私は足立区のイメージを良くすることが大変重要だと考えていますので、あだち菜うどん等の拡大もして足立区って良いねと言ってもらえれば。

エリアデザインについては、個人的に空き店舗対策は必要だと感じますが、東口と西口の一直線で、昔からやっている人は少なく、東口は特にそうだと聞いています。商店街は存在しているように見えても、事実上存在していないと同じだとも聞きました。行政は何もできないのかと思います。店の出入りに口出しできないなら、店を作る時、せめて景観くらいには口を出せないのかと思います。例えば宿場街通りの端に、足立成和信用金庫の本店が建てられました。昔ながらの格子のデザインとなっており、こうした景観にこだわることも行政にやってほしいと思いました。

なかだ委員

アンケートの結果から、皆さんが割と不満なく満足して暮らしているという印象です。私は千住に住んでいますが、18年ほど前はなんとなく治安が悪いイメージもありましたが、最近は良くなったイメージしかなかったので、まだワースト1であることに驚いています。

空き店舗の解消については、起業したい若い方も多いということもあったので、各部会の中で弱点と強みをうまく組み合わせると改善策が見つかるのではないかと思い、前向きにとらえて聞いていました。

弱みと強みを組み合わせると、グローバル化の時代の中、足立区内だけで生まれてから死ぬまで、学業や就職も含めて完結できるような気がします。グローバルの中で逆行して面白いことができるような気がします。千住の中では電車に乗らずに街の中だけで暮らしているお年寄りも多いという印象もあるので、車がなくても暮らせるという時代に逆行した面白さも見つけられると思いました。

逆に外から観光資源などで人や企業に来てもらったりということも含めて、部会ごとに面白い提案が見つけられそうな予感がして前向きにとらえてお聞きしていました。

小沢委員

異業種連絡協議会の小沢です。製造業に関してお話をいただくと、最近、地域外の同業種企業による連携が盛んにおこなわれており、IoTでもA社がB社にデータを送って作る等、ハードではなくソフトな部分でつながっていく時代になってきたと考えています。

また事業承継では、創業年数50年前後が多く、2から3代目が頑張っており、世の中に対応しようとしている経営者が非常に多くいるように感じています。特に中堅従業員向け人材育成・能力開発では、これらの経営者が、新たに若手社員に経営の部分の教育しているようにも考えられます。そして若手従業員向けの人材育成・能力開発では、高い教育や専門的な技術を持った人や外国語を話せる人が多く、その意味で若手の従業員を教育できる人が多くなっていると感じました。

最後に、研究機関における技術の導入については、1/2程度の割合助成金をもらい、高度な知識や専門的な知識を持つ技術者が、新たな技術を使いこなせるようになってきている側面もあるかと思います。

入江委員

自分自身、1年半前に起業したため、起業に関心があります。また、最近、足立区 NPO 活動支援センターの活動に関わる中で、起業したい区民の方と触れ合って、起業したい方が増えている印象を持っています。また、弊社のレストランで業界の交流会といったイベントを行っているが、先週、医療・介護系の業界の集まりで、1年前は40人ほどだった会合が、3回目で120人くらいに増えていて、アンケート結果の13%というのはあながち間違っていないとか、もっと多いような印象もあります。

起業家がいる中で区もバックアップしていると思いますが、個人的には月並みなアイデアかと思いますが、コワーキングスペースやインキュベーションセンターなどおしゃれで入りやすく、運営者側がコミュニティを作るような仕組みを作ったり、起業で成功されている方々を呼んでゲストスピーキングをしたりなど、起業家にとって興味があるような仕組みをつくっていただくと面白いと思います。千住でスタートして、できれば西新井などに広げていただきたいです。

もう1点、観光の面から、我々、外国人の宿泊者の方にアンケートをとっていて、西新井の魅力について伺うと、「人との距離感が面白い」という意見が多いです。実際、我々は居酒屋さんや島根小学校の授業を見られるようにしようと活動をこれからやろうとしています。また、最近では一部の商店街の方にご協力いただいて、中を見せていただいたり、おばちゃんと話をさせていただいたり、銭湯が有名なので岡田湯が営業する前に中を見せていただき、最後にゲストどうしと一緒にいらしていただいて裸の付き合いをすることで仲良くなるなど、こうした点が足立区ならではの点かと思います。観光交流協会に様々なイベントを紹介していただいて、参加させていただいていますが、骨子案にもあるように様々な企業や団体との連携とありますが、外国人の方を受け入れていただけるような施設等がありましたら紹介していただきたいです。そういった人とのつながりを深めていくことが実際に営業していて足立区の観光のみどころになると感じています。

中根会長

今まで委員のお話を聞いていますと、ひとつは商店街というのがキーワードになると感じます。それから、企業と行政、あるいは企業間の連携、ネットワークを考えていく必要があると思います。例えば、商店街に関しては空き店舗の活用というご指摘がありました。それから地域に関しては治安というのが針小棒大に扱われているのではないかということに関しては、改めて区が情報発信していく必要があるのではないかという気がしました。

アンケート結果について委員からご意見をいただきました。また、アンケートで足りない部分があるという指摘もありました。その点については我々も含めて事務局と再検討していきたいと思いますが、今までの委員の発言を踏まえまして福田委員、お願いします。

福田委員

アンケート結果から見えてきた強みと弱みを施策に活かしていくということが重要なポイントかと思いますが、骨子案で示されている5つの柱立てだけで完結しないように、まさに緑色で示されている横串をとおした、今回のキーワードになっている協創をどのように具現化させていくかということが今回の計画のキーポイントかと思いますが、産業も医工連携ですとか産学連携など、他業種、他分野と有機的な連携をしていくことがキーワードとなっていますし、なっ

いますが実現するのが難しいと思っています。それをどんな形で分かりやすく示していくか、観光と産業をリンクさせたり、教育とリンクさせたりということでモデルケースを作っていくなど、そういったことでわかりやすくなっていくのかなと思います。

岡田副会長

今回のアンケート結果からわかったことは、足立区は住みやすく、商店街が栄えていて、高齢者が元気である。加えて、若い経営者の方々も大変前向きであるという印象を持ちました。

高齢者というと隅っこのほうに追いやられていて、なおかつ悪質商法のターゲットにされているというマイナスイメージばかりありますが、このアンケートではとてもパワフルで高齢者も起業したいとか見まして、足立区に集まっていたり高齢者の方はやる気満々です。

商店街に一番身近な存在が高齢者なので、高齢者の意欲や行動と商店街の活性化の両方が必要です。今まで以上に商店街と消費者団体の連携に関して行政も支援していただけたらと思います。

阿高副会長

先日、従業員 60 人くらいのある企業を訪問しました。新しい工場を作ったが、社長がぼやいていたのは防音装置で余計なお金がかかったと言っていました。住宅の中にあるため、防音が重要ということです。新しい工場を作ろうと思ってもそういった制約があって、外へ出て行く企業が割と多い。足立区の工場が少し規模を大きくしたいというときに移転しないような支援を行政のほうで準備できないかと思います。工業団地のようなものが足立区にはないので、そういう施策を用意できたらとも思います。

また起業家精神が旺盛ということで東京電機大学にもインキュベーション施設があるのですが、施設を卒業していく企業が困っているのは事務所をどこに作るかということです。商店街の空き店舗があるということなので、そういうところを安く供給してもらえると創業する方々がステップを踏めると思います。

それから、協創ということでは足立ブランド企業が現在 48 社ありますが、非常に要素技術が優れていますので、足立ブランド企業が連携する仕組みを作ると大きな力になる気がします。

中根会長

ありがとうございます。委員の皆さまから様々なご意見をいただきました。

今後、計画を策定していく上で、事務局として何かありましたらお願いします。

大高産業経済部長

就労については、行政の捉えるマーケットは 15 から 60 歳の生産年齢を見ています。通常の方々はお勤めをするわけですが、そうでない方もいらっしゃいます。こうした残念ながらマーケットに参加できない方について支援していくことを就労と考えています。企業と一般のマッチングを考える視点を雇用とし、この雇用が区内でうまくいっていない理由を探り、施策を検討していくことが産業経済部で取り組んでいく方向性だと考えています。やらないということではなく、やり方が違うといったイメージになります。

また景観については、まさに協創だと思います。景観条例はありますが無理強いできるようなものではありません。西新井大師の門前にあるお店を見ていただくとわかりますが、関係のないものが出来てしまうこともあります。このため自主的に景観への取り組みが必要で、自ら守っていく環境を作っていくことが重要だと思います。

空き店舗問題についても、20年以上前から問題になっています。商店街が徐々に歯抜けになってしまい、商店街としての形態がとられなくなってしまいます。しかし空き店舗対策はオーナーや権利者、相続者等、色々な方が多く、ここでも協創が必要だと思います。入江委員のおっしゃる通り、テナントではなくオフィスとして利用する等、それぞれの店舗のオーナーとも一緒に知恵を出し合って解決していくことが大事だと思います。いずれにしても行政のできる範囲は狭いため、皆さんと協創していければと思います。また計画を作っていく上でも、何か実現できることが1つでもあれば良いと思います。

島田産業政策課長

多岐に渡っていますので、一つひとつにお答えはできませんが、今後、部会の中で噛み砕いていただいたり、深めていただきたいと思います。

本日、骨子案をお示しさせていただきましたので、この骨子案で良いということであれば、これをベースにご意見をいただいていくということになりますので、よろしくをお願いします。

中根会長

それでは、次期計画の骨子については、事務局から示された骨子案をベースとして、本日委員の皆さまからいただいた意見を反映させていく、ということで異議はございませんでしょうか？

委員各位

異議なし。

中根会長

続きまして、報告事項が1件あります。経済活性化会議の部会として位置づけられている審査会の審査結果の報告です。説明をお願いします。

山崎中小企業支援課長

中小企業支援課です。資料10 ビジネスチャレンジコース「継続申請」の審査結果について、ご報告致します。1社、PRIMEdot 株式会社という企業が新しい技術や製品の展開についての補助で、継続申請を挙げており、スマートフォン等の本体と画面間の接着技術について採択がありました。

中根会長

ただいまの説明について、質問はありますか。その他、事務局から何かありますでしょうか。なければここで事務局に進行をお返しいたします。

島田産業政策課長

中根会長、進行をありがとうございます。次回は8月に施策体系や施策について検討を行うということで、各部会を開催させていただきます。皆さま、本日は長い時間ありがとうございます。

以上